

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会

会議名	第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会
日時	平成21年10月19日（月）午前10時から12時
場所	宇治市役所 8階 大会議室
出席者	<p>（委員）</p> <p>森川 知史 委員長、杉本 厚夫 委員長職務代理、奥西 隆三 委員、門脇 洋子 委員、迫 きよみ委員、向山 ひろ子 委員、弓指 義弘 委員、坂田 耕作 委員、清水 桂子 委員、竹之下 典祥 委員、原 保彦 委員、古川 彩 委員</p>
	<p>（事務局）</p> <p>櫻木 武 教育部次長、加藤 きみ江 生涯学習センター所長、池田 聖 生涯学習課主幹、久泉 昭人 生涯学習課生涯スポーツ係長、川瀬 章治 生涯学習課生涯学習係長、森 敦子 生涯学習課主査、杉山 博美 生涯学習課主事</p>
	<p>（傍聴者） なし</p>
<p>前回の会議録について、委員からの意見が特になかったため、公開することとなった。</p> <p>開会のあいさつ （委員長） ちょっとした相手を気遣う一言が、コミュニケーションにおいては重要であると感じる出来事があった。 過去2回の会議で、コミュニケーションについての意見、体験等を出していただいている。今回の会議もそのように進め、今期の審議事項について探っていきたい。</p> <p>（1）報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕について</li> <li>・平成21年度やましろ未来っ子『京の子ども 明日へのとびら』 実践交流会について</li> </ul> <p>それぞれ委員から報告があった。</p>	

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会

- ・第19回紫式部市民文化賞について  
(事務局)

第19回紫式部市民文化賞として、木澤 瑞季さんの『列車の音色』、川本 卓史さんの『折々の人間学—京都で考えたこと』の2点が受賞された。また、選考委員特別賞として、(財)宇治市文化財愛護協会の『宇治の散歩道—第三集・西宇治地域編—』が受賞された。11月15日に贈呈式が開催される。

- ・第27回市民スポーツまつりについて  
(事務局)

10月12日に、太陽が丘で開催された。参加人数は、16,000人であった。

- ・歴史資料館特別展について  
(事務局)

『『東海道中膝栗毛』完結200年記念特別展 弥次さん喜多さん京をゆく』が、10月3日から11月22日まで開催されている。ぜひご覧いただきたい。

- ・その他  
(事務局)

『第28回宇治市「中学生の主張」大会』が、11月18日に宇治市文化センターで開催される。

### (2) 協議事項

- ・平成21年度京都府社会教育研究大会について  
(委員長職務代理)

11月27日にアミティ丹後等で開催される。

この大会の分科会における司会者を、参加される委員から選出したい。

一協議の結果、司会を担当する委員として原委員が選出された。また、参加を希望する委員は、事務局まで申し込みをすることが確認された。

- ・今期の審議事項について  
(委員長)

ここにお集まりの委員は、地域の人や団体等と連携され各分野で活躍されている。その活動の中で経験されたコミュニケーションに関することについて、お話いただきたい。

#### (委員)

「たった一言」がポイントであると思う。「たった一言があり」喜ばれたり、「たった一言多く」問題が生じたりする。相手に何かを話すときは、自分だけでなく相手の状況もよく考えなければならない。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会

(委員長)

お見舞い有的时候に、「頑張ってね」というと「十分頑張っているのに」と感じる人もあるようだ。相手の状況を考えなければならない。

(委員)

地域の運動会を通じて、新興住宅地の若い世代の人と接することがあった。地域活動に若い世代が入る機会が少なくなっている中、参加があり喜んでいて。その後、別の機会でも偶然会ったとき運動会の話話をきっかけに交流が図れた。スポーツ等がコミュニケーションのきっかけとしてよいのでは。

(委員)

今年の4月から喜老会に入った。宇治の中で会員数が多い喜老会で、行事が多く参加しやすい。行事を開催することで、良好なコミュニケーションがとれていると感じる。

(委員)

地域の運動会に町内の古い人が新しい人を誘い出しつながらをもてるようにしている。スポーツは競技として競っても参加することを目的としてもコミュニケーションのきっかけとして良いと感じる。

(委員)

コミュニケーションの第一歩はあいさつである。登下校時の子どもの見守り活動の際に子ども達にあいさつをしている。継続してあいさつを行うことで、登校時にはあいさつが返ってこない子が下校時にはあいさつを返してくるなどがある。あいさつは、継続することでコミュニケーションのきっかけとなる。

(委員長)

目的を達成することに目が行き、その目的を達成するためのコミュニケーションを図ることがおろそかになっている。

人と向き合っていくことに関する提言をまとめられたらよいと思う。また、向き合うため必要となることとかについての意見はどうか。

(委員)

ハウレンソウ＝報告、連絡、相談を「すぐに・必ず・できるまで」を心がけている。

(委員)

ゲーム世代がお母さんになってきている。その世代の人に「子ども同士のコミュニケーションにゲームは良くない」と伝えても、自分が育つ過程で行ってきたことなのでなかなか理解を得られにくい。言い過ぎるとその人自身の否定にもつながる。地域社会で育った世代と大きな溝があると感じている。世代に合わせたコミュニケーションのあり方、人同

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会

士が寄り添える何か、それが作れたらいいと思う。

(委員長)

現代は国内で異文化交流が行われていると感じている。地域社会を知らない世代と、地域社会に育ててもらった世代、育った環境・時代背景により考え方に大きな違いがある。地域社会との交流が無いまま大人になる人が増えていて、今後も益々増えていくだろう。考え方が違う世代、それをつなぐことへの対処ができればと考える。

(委員)

報告事項にあった奈良大会の実践発表では、「通学合宿」の紹介があった。小学校1～6年生が近所の公民館で1週間生活しそこから学校に通う取組で、地域の人とそのサポートを行っている。小学生の親はサポートには加われず、地域の人から言葉遣い等社会のルールを学んでいる。子どもを通じ地域がつながっていると感じた。

(委員長)

昔は大人になる過程で若者が地域で集まれる場所があった。そういった場所で社会性等を身につけていたと思う。同時に悪い習慣を身につけるといったこともあったとは思いますが・・・若者が集まれる場所が減ってきている。その事などについてどうか。

(委員)

確かに昔は、青年団活動などを通じ少し年齢構成に幅のある集団が集まっていた。その集団で良い事も悪いことも体験する中で社会性を身につけたと感じる。今の若者は集団での遊びが出来なくなっているのではと感じる。

(委員)

皆さんの話しを聞いていて思うのは、地域の中で共通の話題がないことが原因と感じる。子どもの見守り活動で毎朝出会う人との会話でも、天気の話では毎日の会話としては使えない。その人の人となりを聞くのも勇気が必要でためられる。しかし、子どもの話題を行うと良好なコミュニケーションが図れた。子どもの話題が地域での共通の話題になるのではないか。

(委員)

学生を見ていて、コミュニケーションが下手だと感じる。ボキャブラリーが少ない。「清々しい」や「初々しい」という意味が分からなくなっている。言葉では感覚的なものが理解できないようになってきていると感じる。言葉にメロディーや映像を付け音楽にすると伝わるようだ。

現代社会でなぜ人ばなれが起こったのだろうか。社会学では、私秘主義、個人主義、プライバシーの重視、核家族化を原因と考えている。その時代に育った若者は言葉に弱いのだろうか。ただし、人を知るには言

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第3回審議会

葉だけでは無い。体験を通じたコミュニケーションも必要だろう。

(委員)

私の授業に参加しているある学生に、授業の変更を他の学生に伝えるよう頼んだが、数人には伝わらないことがあった。昔は同様の依頼を行った場合、漏れなく伝わっていたが今は違うようだ。私もその連絡をパソコンからメールを送信したので安心していましたがシステムの不具合で送信できていなかった。自分自身もメールに頼りすぎていると感じた。

(委員長職務代理)

皆さんの話しを聞き今の時代について3点思うことがあった。ひとつは、スナックからカラオケボックスの例やサッカーからフットサルのように小集団化が進んでいると感じる。その小集団で様々な遊びを行うため人の輪が広がりにくい。また、小集団化すると、言葉を発しなくても気持ちが伝わりコミュニケーションが少なくなる。二つ目は、社会全体が私秘化してきている。居酒屋の個室化やファミレス等で合い席が無くなったこと、レンタルビデオもインターネットで借りられたりする。人と接する機会が減り、知らない人とどうコミュニケーションをとっていいのか分からなくなっている。三つ目は、コミュニケーションをとる手段がメール等メディアに頼りすぎている。メディアに頼った結果、目を見て話せない人や相手の対応を見て話題を変えたりすることが出来ない人、質問ができない人を生んだのではないか。

(委員長)

今の社会はどんどん個別化・小集団化が進んでいる。それをどうつなぐか。また、世代により考え方も大きく異なる。世代を超える取り組みも必要だ。今日の意見交換を参考に次回には今期の審議事項をまとめた。

(3) その他

- ・第51回全国社会教育研究大会熊本大会について  
参加される委員には、別途案内済みである。

<次回の会議について>

平成21年12月14日(月) 午前10時から